

# リムネットに再挑戦 IP接続に成功した。 最大の難関は 端末モードの 違いだった。



## 第2回 リムネット編 その2



モザイクってストーンズのコンサートも見れちゃうんだって？

モザイク：インターネット上のWWWと呼ばれるデータベースの情報を見るためのビューア。文字だけではなく画像、音声、動画も扱える。

ストーンズのコンサート：昨年11月19日、ストーンズはインターネットのマルチキャスト技術を使い、世界中にコンサートを生中継した。

MacTCP：インターネット接続に必須のマック用の標準ネットワークドライバソフト。

PPP：インターネットにダイヤルアップ接続するためのソフト。

Link Dead：回線の接続が切れること。

最近、いろんなところでインターネットの話が取り上げられるせいか、友人から「オレもやろうかなって思ってたけど、どう？」とか聞かれることが多くなってきた。

それどころか、「ねえねえ、モザイクって面白いんでしょ？ ストーンズのコンサートも見れちゃうんだって？」なんつー女の子まで出てくるしまつ。そういう時、「うーん、コンサートは違うんだけど……」と、ちょっと困りつつも、うれしくないというウソになる（でへへ）。

が、しかあ～し、こんなノリの連中におススメ！ という素人向けのプロバイダーははっきり言って、ホントに少ない。知ったかぶりしてご紹介したら最後、インストールから回線接続の面倒を見なきゃならんというハメにも……。それを考えると、うーん、こりゃインターネット生活向上委員会でも結成しなくっちゃだね、と思いつつ、今月も日本のインターネット発展のために、日々探検を続ける私である（^^）

ところで、先号ではリムネットへの接続に挑戦し、あえなく方向転換を迫られたの（つもり）であった。しかし編集部からは

「だってまだPPP接続まで行ってないでしょ。とりあえず、行くところまで行ってみてよ」とのご注文。うーん、とは思ったが再度挑戦してみることにした。

で、その結果は……というところ、やっぱりうまく行かなかった。モデムの相性が悪いのか（だからアナログ回線って嫌いだ！）BBSの方に2400bpsというスピードでアクセスし、どこやらの親切なユーザーの方が書いてくれた設定方法を参照して、MacTCPやらPPPやらの設定を全部点検。これが結構面倒（詳細はのちほど）。しかも、やっとコネクションができたと思ったら、なんと、待ってるうちに「Link Dead」が出てオシマイ（これものちほど）……うーん。こりゃド素人の私にはおえそうもない。

ということで、締切直前に再度トライしたものの、結局はうまく行かず「誰かヘルプ」ということになり、ことインターネットの接続にかけては百戦錬磨の編集部（らしき人物）を臨時隊員に加えたのであった。

## 🌀 お助け隊員の活躍

まずは例によって、リムネットのオンライン・サインアップ用電話にアクセスして、新規にIDを申請してもらうことにした（先号の記事を参照）。ふつうの人がやることを体験してもらうのである。

ところが、コーポレート・アカウントの彼のクレジット・カードの番号を打ち込むと、「そのカードは使えません」と言われてしまう。「ふ～ん、これはブラックリストのデータベースでも持っているのかね？」という冗談も出たが、ま、そんなことを言っても始まらないので、個人用のカードを使ってもらうことにした（いかに仕事とはいえず悲惨である。このへんの精算カンケーはどうなっておるのだろうか？）

とどこおりなくサインアップのプロセスを終了し、しばらく待ってから、とまかく設定したIDとパスワードでBBSの方にログインする。と、OKだ。ま、この辺までは私だってできたもんね、とは思ふ……。

さて、ここで彼は「メインメニュー」から「メニュー形式」を選択し、さらに「1. 掲示板（事務局からのお知らせ）」を選ぶ。ふ～む、やっぱり最初はこのページからだよね、と納得。

ただ、ここで問題なのは（先号でも書いたけど）、この画面が「VT100」の画面であることだ。

たまたま手持ちのパソコン通信ソフトが対応してたからいいけど、もしそうでなかったらメンドクさいことになる。実際、現在流通しているパソコン通信用の端末ソフトのうち、どれくらいが「VT100」に対応してるのかは知らないが、やっぱりこれって結構混乱するんじゃないかな～。もっとも、オンライン・サインアップ終了時に、リムネットの側から「VT100互換の通信ソフトをお持ちでない方は、後日ネットワークからダウンロードしていただけるようになります」とのことだったので、なんとかなると思うけど……（なんとかならない場合はこの記事を参考にしてみてくださいませ）

せ）

で、話は掲示板の方に戻る。

「1. 掲示板（事務局からのお知らせ）」の下には、「リムネットからのお知らせ」

「RIMNET利用ガイド」「インターネット利用ガイド」といったものから「ショッピング」「モニターニュース」まで、さらにいくつかの掲示板がある。

いろいろのぞいていると、なんと、前にはなかった「ダイヤルアップIP接続」の項目が「インターネット利用ガイド」の中に追加されているではないか！ しかも「Trumpet WinSock」から「Internet Office」「Chameleon」「MacTCP & MacPPP」「MacTCP&interPPP」まで、いろんな設定が解説されているという充実ぶりだ。

をを、なかなか改善されている（もちょっと早めにこういうのを準備しておいてくれれば良かったのに）。ま、私の場合はいわゆる「インターネット・フロンティアの苦難」というやつを体験したわけだな、うん。

さて、私の場合は「MacTCP & MacPPP」なので、そこに書いてある説明をもとに設定してもらうことにした。説明のおおよそは、以前に見たユーザーの設定方法よりは若干親切だ。さすがにシステム側がやるだけある、と思う。

ここを読んで（とはいっても、VT100端末の問題から記録をとるのはちょっと大変。ここんどこ、やっぱりもうちょっとなんとかならんもんでしょうか）、いったん接続を終了し、「MacTCP」と「MacPPP」の設定をやってもらうことにする。

## 🌀 MacTCPの設定

今回はリキを入れて（そこまで言う？）スクリーンショットを撮ったのでそれを参照して欲しいが（113ページ）、まずは「コントロールパネル」の中の「MacTCP」を開いて【図1】、上の方のボックスの中にある「PPP」を選択しておいてから、下の方にある「More...」をクリックする。とボックスが出てくるので、【図2】のような設定に

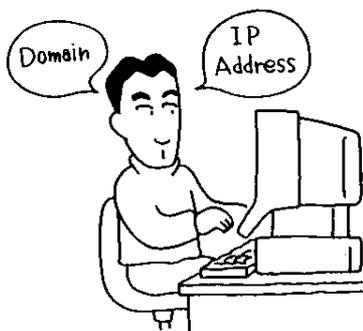


をを、なかなか改善されているぞ。

ダウンロード：ネットワーク上にあるデータを手元のコンピュータに持つてくること。

Internet Office：Windowsマシン用のインターネット関連のアプリケーションだけを収録したパッケージの製品名。販売はトランスコスモス。

Chameleon：米ネットマネージ社のWindowsマシン用のTCP/IPドライバとアプリケーションソフト。



えーと、Domainはns.rim.or.jpってうちこむんだな。

IP Address：インターネットに接続するコンピュータ毎に割り当てられる番号。ダイヤルアップPPPの場合、プロバイダーが用意したサーバーに割り当てておかなければならない。

Domain Name Server Information：インターネットのWWWサーバーの名前をIP addressに変換するための仕掛け。自分のドメイン名とプロバイダーのDNSのIPアドレスを設定しておく。

Idle Timeout：アクセスしている途中で居眠りしてしまっても、少しは安心。

Flow Control：モデムから自分のマシンに大量のデータが来たときには、一時的にデータ送出を待ってもらわなければならない。この制御の方法として、Macの場合は一般的にCTS&RTS(DTR)を使う。

Authentication：ユーザー認証のこと。「Connect Script...」と「Authentication...」の違いは、プロバイダーが使用している機械の構成に依存する。リムネットの場合は他のプロバイダーでは提供されていない、通常端末でのログインサービスもあるのでConnect Scriptとなる。

してしまえば良い。

「Obtain Address」は自分のIP Addressの取得方法だが、「Server」から手に入れるようになっているので、「Server」のボタンをクリックする。

「Routing Information Gateway」のところは、上で「Server」を設定すれば自動的に設定されるので気にすることはない。

画面右上の「IP Address」では特に指定しなくてもいい。その他も無視して大丈夫。

画面右下の「Domain Name Server Information」には「Domain」の下のところを「ns.rim.or.jp」に、「IP Address」の下のところを「202.255.181.2」とタイプしておく。

## MacPPPの設定

今度は「コントロールパネル」の中の「Config PPP」を開く。ここは設定する項目の階層が深くなっているの、結構面倒だ。

最初に「Port Name」のところのトグルで自分のモデムのつながっているポートを選択する。

「Idle Timeout」は、データが送信されなくなっただけでどれくらい経つと自動的に回線を切ってしまうかの設定だが、ここでは10分を指定しておけばいいだろう。ケチな人なら5分くらいね。

その他はだいたい図の通りだが、ここで×印を付けてない「Quiet Mode」のところを×にすると、いちいち「現在、相手と接続しました」とかいうMacintoshからご報告が来なくなる。ま、うるさいと思い始めたら、チェックした方がいいみたいだ。

下の「New...」をクリックして出てくるダイアログボックスに、新たに「RIM-NET」と入力する。これを「OK」したら、「PPP Server」のところは【図3】のようになる。

次はちょっと面倒な「Config...」をクリック。そうすると【図4】のようなボックスが出てくる。

「Port Speed」は手持ちのモデムのスピー

ドに合わせて設定するが、最大通信速度の2倍程度の数字を入れれば問題はないみたいだ。

「Flow Control」は「CTS&RTS(DTR)」に設定し、「Tone Dial」か「Pulse Dial」のボタンは自分の使っている電話回線に合わせる。

「Phone num」はリムネットの電話番号だが、この図では東京の編集部から内線経由でアクセスしているので、頭に「0、」が付いている。リムネットはサービスの性格によって、いろんな番号を持っているので、センター側から提供される番号を確認して、選んでほしい。

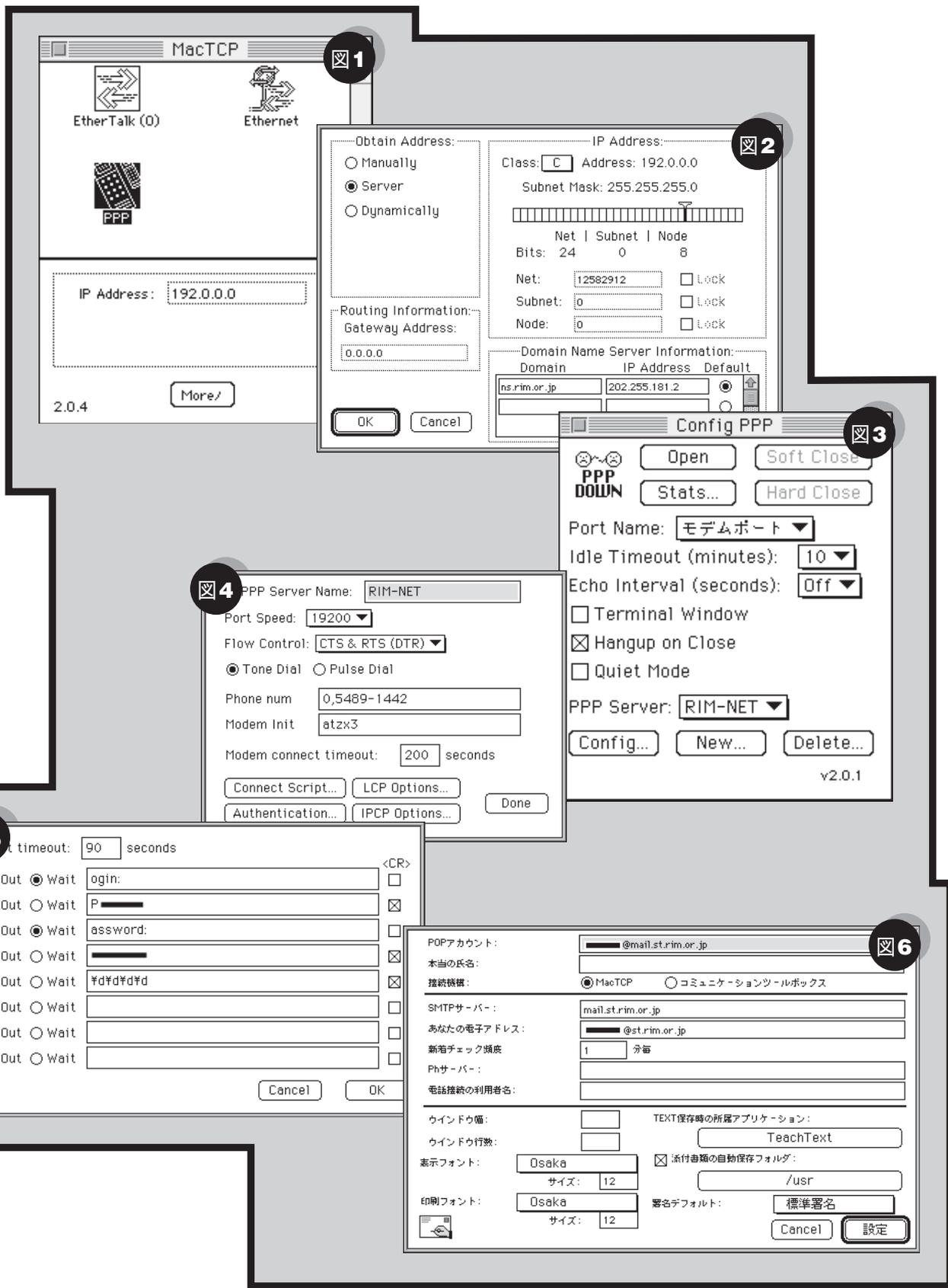
「Modem Init」は自分の持っているモデムによって異なるので、これはマニュアルなどを参考にして.....。

「Modem connect timeout」は実際にモデムがコネクトするまで、どれくらい待つかを決めるのだが、ここでは、なんと「200」秒を指定した！

う～ん、私の設定は確か60秒だったぞ...と考えると思い当たったのだが、そうかあ、ここが短かったおかげで、すぐに「Link Dead」とか言われて、回線を切られてたわけだ.....。がひょ～ん、おまヌケ。とは思ったが、セッションに入れるまで、普通200秒も待つのかなあ？ 確実にきすためのマージンという意味もあるのかも知れないけど、これって、どう考えても変だよ～。だからアナログ電話って嫌いなんだよね、まったく。

さて、下の方に「Connect Script...」というところがある。これをクリックすると【図5】のようなボックスが開く。他のプロバイダー（といっても、IIJとBEKKOAMEくらいしか知らないが）の場合は、ここではなく、「Authentication...」をログイン用に利用していることが多いのだが.....。

ここにはちょっとしたログイン・シークエンスのやりとりを書かなければならない。とは言っても、ハン通端末のマクロを書くほど難しくない。ただ単に、【図5】のようにキャラクターをタイプし、「out」か「wait」のボタンをクリックし、文字列の後





まったく隊長の面目まるつぶれた。

LCP Options : PPPで使われる「Link Control Protocol」の略。パケットの最大長や、接続する時に行われるAuthenticationの方法などを変更するプロトコル。

IPCP Options : PPPで使われる「Internet Protocol Control Protocol」の略。LCPより多機能で、自動的にIP addressを割り当てられるプロトコル。

POP アカウント : ここには自分の電子メールアドレスを入力してはいけない。@より後ろの部分のマシンでプロバイダーのメールサーバーを指定している。EudoraではPOP3 (Post Office Protocol - Version 3) というプロトコルで、メールサーバーから電子メールを持ってくるため、こう呼ばれている。

SMTP サーバー : Simple Mail Transfer Protocolの略。メールを送り出す際のプロトコル。

Netscape : WWWビューアの1つ。高機能 / 高性能なのでお奨め。基本的には英語版だが、日本語が表示できるように修正するプログラムもある。

NewsAgent : ネットワーク上のニュースを読むプログラム。

の「<CR>」のボックスを必要に応じてクリックしておくだけだ。

注意するのは二行目の部分で、リムネットの場合、ダイヤルアップIP接続かどうかはIDの先頭に付ける大文字の「P」で判断しているようなので、ここを忘れないようにすること。たとえばIDが「yokota」の場合は「Pyokota」とタイプすることになる。なんだかちょっとへんなことになってしまうが、ま、これはしょうがない(読者の中の「横田」さん、別に他意はありませんからね~)。

リムネットの設定では、この他の「Authentication...」「LCP Options...」「IPCP Options...」については触らないこと! である。

さてさて、ようやく「PPP」の設定が終わったので、ここで「Done」をクリックすればおしまい。後はリスタートして、アクセスするだけだ。

### 🌀 Eudora-Jを使ってみる

リスタートしたら、ふつうは「Config PPP」の「Open」ボタンをクリックする。そうするとマシンが自動的に電話をかけて接続してくれるのだが、今回はその前にダイヤルアップでメールを使ってみることを考えて、「Eudora-J」の設定をやっておくことにした。

メニューバーの「操作」のところをプルダウンして「設定変更...」を選ぶと【図6】のようなボックスが開く。そこでリムネットから指定されたサーバーのリストを見ながら、次のようにタイプしていく。

まず「POP アカウント」のところは「(自分のID = これはPの付いてないやつ) @mail.st.rim.or.jp」をタイプし、本当の氏名のところは、格段の趣味がなければ.....おっと、これは冗談.....相手のメーラーが日本語表示できない場合があることを考えて、ローマ字で本名を入れる。

「接続機構」の部分は、今回は外部のモデムを使うので「MacTCP」のボタンをクリック。

さらに「SMTPサーバー」には「mail.st.rim.or.jp」とタイプし、「あなたの電子アドレス」には上と同様に「(Pの付いてない自分のID) @st.rim.or.jp」と入力する。

「新着チェック頻度」は「MacPPP」をクローズしていても、このメール・プログラムが動いていけば、指定した時間に一度、自動的にメールのチェックを行ってくれる便利な機能だ。ここでは「1」分に設定してあるが、こんなことをやったら忙しくて他のプログラムを動かせない! 編集部員は筆者から送られてくる原稿を一分でも早く見たい(これは私へのアテツケか?)のだろうが、とりあえず普通の人は「30」分程度にすればいいんじゃないかと思う。

最後に、再び「操作」のところから「パスワードの変更...」を選択して、前に設定したリムネットのパスワードを入れればおしまいだ。

以上、簡単なEudora-Jの設定方法でした。

う~ん、なんか今回は内容が濃いぞ。技術記事(どこがあ?)を書いているみたいで疲れた.....。この他の詳しい設定については、読者のみなさん、申し訳ありませんがEudora-Jの説明書を読んでくださいね。

### 🌀 いよいよ接続

いよいよ接続である。探検隊全員(といっても若干2名だが)の見守る中、Eudora-Jをクリックすると、自動的にマシンが電話をかけに行く.....果たして??

で、結果から言えば、なんとスナリとつながってしまったし、メールも出せた。別の人に出してもらったメールも読めた。これに続いて「Netscape」や「NewsAgent」にも適当なサーバーの名前を入れてやってもらったけど、問題はな~い。某臨時隊員からは「ぜんぜん問題ないっすよ」と言われてしまうし、まったく隊長の面目まるつぶれ状態である.....トホホ。

それにしても、なんか今となってはつながって当たり前の気がするが、いやあ、それにしても長かったです、はい。

いったいこれまでの苦労は何だったかといふりかえってみると、まず第一に見慣れない「VT100」の画面にびくくらこいたことだ。きわめて個人的な感覚でしかないのだが、この画面制御に慣れている人というのはそんなに多くないんじゃないだろうか。

それに、これはもう解決されているが、私の初アクセスの段階ではちゃんとした接続の手順が書かれていなかったのがつらかった。

臨時隊員にも聞いてみたが、「まあ、このファイルがあったから何とかなったけど、またったくの素人の方には難しいかも知れませぬね〜」ということである。

「そそ、まったく難しいのよ。そっちが設定説明を読んでものを見てたけど、二つ三つ、サーバーの名前をメモっただけだったでしょ。でも、素人って全部読まないと思えないと思うんだよね」と私。「だいたいさあ〜、端末の設定ってふつう紙かなんかに打ち出して、読みながらやるでしょ？ どう考えてもVT100の画面を見ながら……なんてできないよね。となると、ここに表示されてる内容を打ち出したいわけだけど、僕の使ってるVT100もどきの端末プログラムだと、それはできないわけ。で、しょうがないから一画面ずつ表示しながら、それをコピー&ペーストで普通のワープロとかエディターに移して、そのファイルをプリントアウトしておもむろに設定にかかるってことになるわけよ。う〜ん、まったくねえ〜……」と相変わらず同じようなことを言うてしまう（「見苦しい」との声あり）。

後は、ダイアルアップ接続だけIDのアタマに「P」が付くとか、「Connect Script」を書かなきゃいけないとか、ちょっと変わってるかなというところもあるが、主な問題はここんどこだろう。

というわけで、最大の問題は「接続設定」のファイルを楽に見れないってことだ。何とかならないかと考えているうちに、パソコン通信のモードでメールを使うという手はどうだろう。

実際には、ユーザーの利用環境はパラバラなわけだから、メールでどっかんと全部

の設定説明ファイルを送りつけるのは問題がある。だから、メニュー形式のどこかに、ユーザーが利用しているプログラムごとに別々のメール・アドレスを書いておく。この程度ならVT100モードでも簡単にメモできる。で、ユーザーがそのアドレスにメールを出すと、自動的に自分用の「端末設定の説明」ファイルが送られてくる、といった具合である。このくらいのことだけでも、ずいぶん設定作業は楽になるだろう。

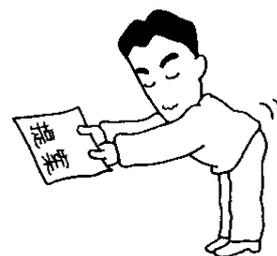
☉ BEKKOAMEはどうなっているか？

ところで、BEKKOAME方面についても、最後にちょっと説明しておこう。

実は先号の「方向転換」と同時に私はBEKKOAMEの方にも電話でパンフレットを送るように頼んでおいたのだが、10日くらいたって豪華A4版のコピーが十数ページ入った封筒が届いた。ちょっと時間がかかるようにも思うが、中にはBEKKOAMEのサービス概要とか、「ご契約申し込み用紙」さらにご丁寧に返信用の封筒までが同封されている。う〜ん、これでモトがとれるのかな〜、と他人ごとながら心配してしまうほどの至れり尽くせりぶりである。

この申込書に必要な事項を記入して送り返すと、また何日が待たされて、今度は初回登録費と年会費の請求書と振込先、パソコン通信のアクセス番号とログイン名、仮のユーザー名や仮パスワードなどが送られてくる。「ご入金について」の注意書きにも書いてあるように、振り込みの時に仮ユーザー名（私の場合5ケタの数字だった）を送金者名の後に付けて入金手続きを行なう。入金をすませたら、少なくとも一週間以内にBBSにアクセスして、自分の正式なIDやパスワードを登録する……という手順である。ちょっとまどろっこしい感じはするけどね。

残念ながら、今回は紙面が尽きてしまったので詳細は次の号で説明したいが、ここまで修羅場をくぐりぬけてきた私にとって、楽勝モードで快適アクセスを実現できた、とだけ予告しておこう。そいではまた！



UNIXユーザー以外にもあたたかい心づかいをお願いします。



次こそは、BEKKOAMEだ。



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)